

「落花生」生育情報（第1報）

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

平成30年7月20日

千葉県農林水産部

生産振興課

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育を情報提供するものです。
調査時点での生育状況をまとめたものであり、本年の収量を保証するものではありません。

早急にかん水しましょう！

梅雨明け以降、県内では降水が少ない状況です。

7月中旬～8月上旬は、落花生の子房柄が伸長して地中で莢が肥大する時期です。この時期に干ばつ害を受けると、空莢や未熟粒が発生し、収量が大きく減少します。

また、8月上旬以降に干ばつに遭うと、幼芽褐変症が発生しやすくなり、種子に発芽障害が生じます。そのため、

- 開花期後20日頃から、週1回を目安にかん水し、
採種する場合は、開花期後40日頃にもかん水しましょう。
- 1回のかん水量は、30ミリ以上の「十分なかん水」を心がけましょう。

(参考)

開花期後20日にかん水すると、稔実率が上がる。



図 開花期後のかん水有無の違いによる子実の状況（平成27年千葉県農林総合研究センター）
（ガラスハウス内枠圃場での調査結果、開花期後40日の子実の状況）

表1 県内各地における積算降水量（平成30年7月のアメダス観測所の値、単位 mm）

観測地	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
千葉	0	0	0	0	0	34	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
佐倉	0	0	0	0	0	32	0	0	3	0	0	44	0	0	0	0	0	0
成田	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
香取	0	0	0	0	0	45	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
木更津	0	0	0	0	1	20	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表2 播種日別の開花期と適切なかん水時期の目安

播種日	開花期	かん水	かん水 (採種の場合)
5/11	6/21	7/11	7/31
5/25	7/1	7/21	8/10
6/6	7/8	7/28	8/17
6/14	7/14	8/3	8/23

(注) 平成30年千葉県農林総合研究センター（千葉市）での千葉P114号及びナカテユタカの開花期を
目安に作成

1 生育状況

本年は、は種時期の5月下旬から6月上旬は、平年と比較して、気温は高く、降水量は平年並となりました。その後、6月中旬は気温が低く、降水量が多くなりましたが、6月下旬の梅雨明け以降は、気温が高く、降水量は少ない状況となっています。

調査までは、は種日から開花期までの日数は平年並～やや早くなっており、7月10日までの生育は順調に推移しています。

表1 作況調査成績（7月10日調査）※対比は日数、又は平年比

品種名	年次	は種日	開花期	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m ²)
千葉半立	本年	5月31日	7月6日	14.6	73.8
	平年	5月29日	7月8日	14.0	69.7
	対比	2日遅い	2日早い	104%	106%
ナカテユタカ	本年	5月20日	6月29日	17.8	141.2
	平年	5月21日	7月3日	17.7	132.0
	対比	1日早い	4日早い	101%	107%
おおまさり	本年	5月31日	7月2日	17.9	60.2
	平年	5月29日	7月4日	21.2	77.5
	対比	2日遅い	2日早い	84%	78%
千葉P114号	本年	5月29日	7月6日	12.0	62.0

* 本年値は、各調査地点の平均値。「千葉半立」は千葉・印旛・香取地区、「ナカテユタカ」は千葉・海匝・君津地区、「おおまさり」は千葉・印旛・君津地区、「千葉P114号」は千葉・印旛・香取・長生地区。
 * 平年値は、平成23年から29年（過去7年間）の調査データから最大・最小を除く平均。
 * 対比はラウンド処理をしているため、小数点以下が合わない場合がある。

表2 （参考）落花生研究室（八街市）の作況（本年の値、7月10日調査）

	品種名	開花期	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m ²)
標播 (5月18日 播種)	千葉半立	6月30日（2日遅い）	20.9 (95%)	127.2 (93%)
	ナカテユタカ	6月28日（2日遅い）	18.5 (97%)	114.9 (86%)
	おおまさり	6月27日（2日遅い）	31.2 (98%)	86.2 (90%)
	千葉P114号	6月28日（1日遅い）	18.6 (96%)	116.4 (87%)
晩播 (6月8日 播種)	千葉半立	7月11日（2日早い）	9.9 (85%)	31.3 (98%)
	ナカテユタカ	7月11日（同じ）	7.5 (64%)	30.3 (87%)
	おおまさり	7月11日（同じ）	15.0 (103%)	22.1 (84%)
	千葉P114号	7月12日（同じ）	8.2 (77%)	32.8 (98%)

* 落花生研究室の3品種の栽植密度は、「千葉半立」、「ナカテユタカ」は5,128株/10a、「おおまさり」は2,564株/10a。注）カッコ内は、平成28、29年の平均値対比を示す。

2 これからの管理のポイント

(1) 中耕・培土と石灰施用

- 中耕・培土を行うと、子房柄が地中に侵入しやすくなります。開花期に実施しましょう。
- 石灰施用は莢実の充実を促します。培土時に合わせて施用しましょう。

施用量の目安：苦土石灰（または消石灰）40～60kg/10a

3 病虫害の早期発見・早期防除を徹底しよう！

（農薬の使用法は必ずラベルを確認してください）

「茎腐病」 茎の地ぎわ部が腐り、地上部がしおれ、やがて枯死します。発生が認められたときは、ほ場には**トップジン M 水和剤（平成 27 年 11 月適用拡大）**を散布し、被害株はすぐに抜き取り、表土と一緒に圃場から持ち出し処分しましょう。



茎腐病への 適用内容

希釈倍率：1500 倍、使用液量 100～300L/10a、
使用時期：収穫 7 日前まで、使用回数：4 回以内

「白絹病」 高温・多湿条件下で発生しやすく、地ぎわ部が侵され白い菌糸が密生し、やがて発育不良となり、枯死します。例年発病するほ場では、**フロンサイド粉剤**を株元に散布しましょう。発病した場合は、被害株をすぐに抜き取り、表土と一緒に圃場から持ち出します。



「褐斑病」 葉に円形の斑点ができる病気で、病状が進行すると落葉します。本病は発生初期の薬剤防除効果が高いため、発生が見られたら早期に**トップジン M 水和剤、ベンレート水和剤**等の薬剤を散布しましょう。



**白絹病・茎腐病は、連作を避け、他作物と輪作して、
被害の軽減に努めましょう！**